

愛労連 西尾美沙子「組織拡大（総がかり行動・最重点計画）、いのちを守る国会請願署名の取り組み」

愛知の代議員、西尾です。大会議案に賛成の立場で、組織拡大、いのちを守る国会請願署名の取り組みについて発言します。

1点目は組織拡大の課題です。

医労連と地域組織が協力して地域でケアユニオンを結成し、仲間を増やす組織拡大総がかり作戦を最重点計画として全労連にエントリーしました。

身近にいる非正規労働者や未組織労働者への働きかけを地域労連とともにすすめ、教訓的な取り組みとなりました。

愛労連は24の地域労連があります。1年間で掲げた地域ケアユニオンの目標の10分会を大きく越え、19分会を結成、現在まで21分会166名の組合員拡大に取り組みました。どこの地域でも、「新しい仲間が増えるのはうれしい」「元気になる」と歓迎され、自治体キャラバンにケアユニオンの介護労働者が参加し、介護現場の実態を訴え、介護をよくする取り組みも始まり、地域労連に展望を見出しました。

総がかり行動によって医労連の個人組合員は166名の組合員を増やし747名になりました。これまで、受け身であった個人加盟組合員が、地域ケアユニオンの結成によって、地域でケアユニオンという自らの組合を得たことで、輝き出し、労働組合の魅力を職場で広げ、紹介による組合加入が例年の10倍の取り組みができました。総がかり推進委員を、豚のキャラクターを描き『とんとんチャレンジャー』と名付け、推進体制も広げてきました。

組合のない職場は劣悪で、その中でも権利を主張し、小さな一人が組合員として奮闘している姿を目の当たりにし、医労連の役員だけでなく、地域労連の仲間が勇気をもらい、医療介護で働く人たちの労働条件を改善することの必要性をそれぞれが実感しました。こうして地域ケアユニオンは、愛労連、地域労連、全労連の力を借りて、大きく飛躍することができました。

さらに、豊橋ケアユニオンに加入したメンバーが職場の改善を仲間とともに進めたいと独立し、全国チェーンの有料老人ホーム・サニーライフ豊橋労働組合を15名で結成しました。結成すぐに、書記長が攻撃され退職に追い込まれるという不当労働行為を地域労連の力を借りて乗り越え、新しい仲間を増やして増員など要求を前進させています。また、2つの地域でIクリニックで7名で分会結成、S有料老人ホームで5名で分会結成し、組合員を増やしながらか然化の準備に取り組んでいます。

総がかり行動で地域が元気になり、4つの地域労連が純増となり、7月26日に行われた愛労連大会で組織拡大の表彰を行いました。

また、地域ケアユニオンの運営を強化し、地域で介護関係単産や介護の会、新婦人などとの共同で「わが町の介護をよくする運動」をすすめることも計画し、組織拡大と要求実現運動の発展を展望しています。

地域が元気になり、組合員が仲間を増やす地域ケアユニオンの紹介運動の経験を活かし、今年は『地域組織きずな』が地域組織とそこに結集する単産とともに、愛労連が総力をあげて、広大な空白である非正規労働者、中小企業労働者の組織化を地域ですすめる総がかり作戦をスタートさせています。

全労連オルグの支援を得ながら、ほぼ毎月行っている「総がかり実行委員会」では、全労連の産別がない業種、職種に分会を結成し、新しい産別ユニオンの結成を視野に入れています。「コロナ対応休業支援金・給付金相談会」の企画を地域で開催し、地域と産別あげて対象者やつながりで企画に誘う取り組みをすすめます。この総がかり行動の組織拡大の目標は100名です。運動量にも目標を持って、拡大目標の10倍1000名対話、推進委員体制も目標をしっかりとって意思統一し、愛知県内の非正規労働者、中小企業労働者の組織化に取り組みます。愛労連大会では5万人対話を提起し、10月31日

に単産地域の集まりを持ち、『地域組織きずな』の総がかり行動を愛労連全体の取り組みとして具体的な意思統一を図ります。推進委員は、全労連『カモンカモンパンフ』を活用してオルガナイザーの力量を高めることも重要です。

コロナ禍で闘わなければ生活も権利も奪われることを明らかにしました。相次ぐ労働相談で派遣や非正規労働者、外国人労働者、高齢労働者など不安定雇用労働者の雇止めや解雇が発生しています。医労連では、コロナ禍で常勤医師の本俸8%カットに怒り、管理者のぞく常勤医5名で労働組合を結成しました。賃金カットの新たな雇用契約書にサインしないという医師らの団結は、実は組合結成前に撤回を勝ち取ったのです。しかし医師らはより不信感を募らせ、団結の大切さと安心して働いていくために労働組合の必要性を実感し、組合結成に至りました。大会結成の「団結ガンバロー」の姿に、医師らが労働者の魂に目覚め立ち上がる人生をかけた闘いなのだとう鳥肌が立ちました。

団結こそ力。労働者の問題の解決と要求実現のために、労働組合加入、労働組合結成を真正面から訴えて組織化に取り組んでいきます。

愛知400万人労働者のうち中小企業200万人以上の労働者がいます。この総がかり・最重点計画を通じて、5万人いや10万人対話運動で労働組合加入の訴えを、コロナ禍で一層深刻な労働現場の労働者に目に見える運動を行って、7万人早期回復、10万人建設の実現を頑張る決意です。

次に、いのちを守る取り組みについてです。

コロナ禍で保健所機能が低下し、PCR検査不足や医療崩壊が取り沙汰され、国民のいのちと健康が脅かされる事態が広がりました。愛知社保協・あいち424実行委員会の主催で、9月6日にスタート集会・署名行動を行います。

コロナ禍で起きている、保健所職員、看護師、介護士、自治体・公務労働者の実態を報告し合い、共同の取り組み、『いのちを守る国会請願署名』のスタートを切ります。

このいのちを守る国会請願署名は、公務公共事業、医療介護の提供体制、低い報酬の問題など、この国の構造的な問題を、根底から変える力になると確信しています。

最後に、秋季年末闘争に向けて、安倍内閣を退陣させ、憲法がいきるくらし・職場・地域をつくる運動に奮闘します。

知崎議長は、コロナ禍で「自粛はするが委縮しない。」と格言。「蜜はさけるが、仲間との心の距離は密に」して、愛労連一丸となって全労連運動を頑張っていく決意を申し上げ、大会の発言とします。共にがんばりましょう。ありがとうございました。